

研究分野	4 水産資源の持続的利用のための技術開発	部名	漁業資源部
研究課題名	(3) 回遊性漁業資源の利用技術の開発 ① 回遊性魚種の資源評価と漁況予測 ② スルメイカの漁況予測		
予算区分	国庫委託（我が国周辺水域資源評価等推進委託事業費、国際資源評価等推進事業費）・県単（漁ろう試験費）		
試験研究実施年度・研究期間	平成26年度～平成30年度		
担当	(主) 及川 利幸 (副) 山根 広大、児玉 琢哉、高梨 愛梨、川島 拓也		
協力・分担関係	国立研究開発法人水産研究・教育機構、JAFIC、各県水産試験場他		

<目的>

日本が平成8年に批准した国連海洋法条約では、排他的経済水域内の水産資源について科学的根拠に基づく資源状態の評価と適切な資源管理が義務づけられている。このため、複数の都道府県で利用される回遊性資源については、国及び関係都道府県の研究機関と協力し、資源調査・漁況予測技術の開発を行っている。

本研究では、資源の持続的利用を図ることを目的に、漁獲可能量（TAC）の制定に係る資源評価票及び漁況予測のための情報収集、並びに本県の特性を反映した地先海域における漁況の把握及び予測を行う。

<試験研究方法>

1 生物情報収集調査

以下に示す魚種について、岩手県主要6港（久慈、宮古、山田、大槌、釜石及び大船渡）における水揚量を集計し漁況を取りまとめたほか、市場調査として市場内において水揚物の体長測定（久慈、宮古、釜石及び大船渡魚市場）及び精密測定を実施した。さば類、マイワシについては鱗による年齢査定、スルメイカについては平衡石による日齢査定を行い、各種データを取りまとめ関係機関に報告した。

調査対象魚種：さば類、マイワシ、カタクチイワシ、ブリ、サンマ、スルメイカ、サワラ、クロマグロ

2 漁場調査等

漁業指導調査船「岩手丸」（154トン）及び漁業指導調査船「北上丸」（38トン）による調査船調査と、市場内における水揚物体長測定を行った。

(1) サンマ

- ア 漁場形成状況調査（調査船名：岩手丸、調査期間：10月下旬、調査方法：さんま棒受網）
- イ 市場調査及び民間船聞取調査（調査場所：釜石魚市場、調査期間：9月上旬～10月下旬）

(2) スルメイカ

- ア 平成28年度太平洋いか類漁場一斉調査（調査船名：岩手丸、調査期間：6月6日～9日、15日～16日（1次）及び8月24日～26日（2次）、調査方法：いか釣）
- イ 漁場形成状況調査（調査船名：岩手丸及び北上丸、調査期間：7月上旬～11月上旬、調査方法：いか釣）
- ウ 市場調査（調査場所：釜石及び宮古魚市場、調査期間：5月～12月）

<結果の概要・要約と具体的なデータ>

1 生物情報収集調査

(1) 平成28年度の県内主要港における水揚量

平成28年度の調査対象魚種における漁法別月別水揚量を表1に示す。平成28年度の水揚量は、さば類（定置網、旋網）が前年度比88.1%の12,928.1トン、マイワシ（定置網、旋網）が前年度比56.0%の2,384.2トン、カタクチイワシ（定置網）が前年度比21.8%の89.9トン、マアジ（定置網）が前年度比46.1%の69.4トン、ブリ（定置網）が前年度比63.4%の3,108.7トン、サンマ（棒受網）が前年度比107.0%の21768.6ト

ン、スルメイカ（定置網、いか釣、沖合底曳網）が前年度比59.9%の4,271.7トン、サワラ（定置網）が前年度比121.6%の463.1トン、クロマグロ（定置網）が前年度比59.7%の63.3トンであった。

表1 主要港における漁法別月別水揚量（単位：kg、岩手県水産情報高度化システム集計値）

魚種	漁法	H28年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29年1月	2月	3月	合計
サバ類	定置網	570,817	492,593	660,140	5,579,903	1,154,656	872,239	355,787	43,486	63,636	126,399	76,517	1,268	9,997,442
	旋網	0	0	0	9,032	0	0	0	1,188,103	1,439,830	0	293,727	0	2,930,692
マイワシ	定置網	23,663	20,964	4,894	23,948	24,090	14,243	31,364	26,323	1,285,533	459,738	76,501	603	1,991,862
	旋網	0	0	0	33,609	0	0	14,228	0	344,550	0	0	0	392,387
カタクチイワシ	定置網	0	0	96	593	2,338	8,183	37,264	36,009	4,463	975	12	1	89,931
マアジ	定置網	0	18	734	6,478	13,158	9,922	13,067	14,243	10,304	1,435	50	0	69,409
ブリ	定置網	940	142,751	1,130,170	203,798	510,860	156,748	311,762	488,085	144,786	18,580	140	70	3,108,688
サンマ	棒受網	0	0	0	0	70,306	6,572,694	9,110,022	5,839,486	176,086	0	0	0	21,768,594
スルメイカ	定置網	154	2,730	10,984	116,822	41,617	13,014	6,134	7,505	842	662	20	1	200,486
	いか釣	0	0	856	88,513	313,407	339,018	73,686	1,359	16,706	3,475	0	0	837,019
	沖合底曳網	0	33	97,356	2,810	0	1,243,839	824,240	373,069	540,320	144,549	8,004	1	3,234,219
サワラ	定置網	5,537	28,092	3,094	24,762	37,672	71,890	236,897	46,394	7,529	1,234	18	0	463,119
クロマグロ	定置網	28	3,575	16,998	11,424	1,344	1,654	19,789	4,577	851	3,053	4	0	63,296

(2) 市場調査結果

ア さば類

(ア) 市場調査

本県で水揚げされるさば類は、マサバとゴマサバが主体となった。

本県におけるさば類の水揚げは、7月に急増した。マサバの混獲割合は、4月はほぼ100%であったが、5月以降マサバの割合が低下し、7月に再びマサバの割合が増加してマサバとゴマサバの割合が同程度になったものの、8月以降、マサバの混獲はほぼ無くなり、ゴマサバ中心で推移した。その後、12月からはマサバの割合が上昇し、1月からマサバの混獲が100%となった（図1）。

釜石魚市場で実施した定置網漁獲物の体長測定（尾叉長）の結果を図2に、精密測定に基づく年齢査定の結果を表2に示した。マサバの尾叉長及び年齢は、4～8月は29～31cm台主体の2～3歳魚（2013、2014年級群）中心で、6～7月には24cm台主体の1歳魚（2015年級群）のモードが見られた。12月は36cm台主体の2～3歳魚が中心で、明確なモードは見られないが小型の1歳魚も見られた。ゴマサバの尾叉長及び年齢は、5～12月は31～34cm台主体の2～3歳魚が中心で、11～12月には19～20cm台主体の0～1歳魚（2016、2015年級群）のモードが見られた。

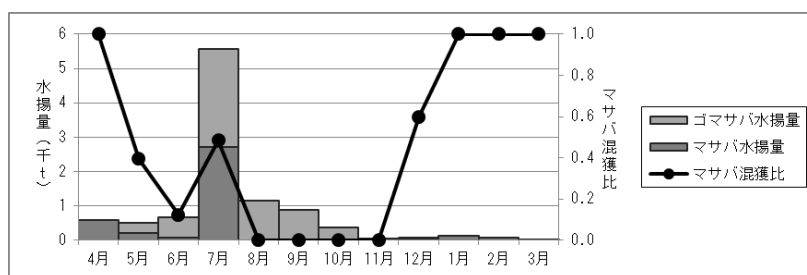


図1 マサバ混獲比と水揚量の推移

(イ) 岩手県地先海域における漁況予測

さば類に関して、平成27年12月の漁獲動向に基づき、平成28年8～12月の漁況として、さば類漁獲は前年を上回り、近年平均を下回ると予測したが、実際の漁獲量は、前年比73.7%、過去5年平均比57.2%の2,490トンとなった。

尾
数

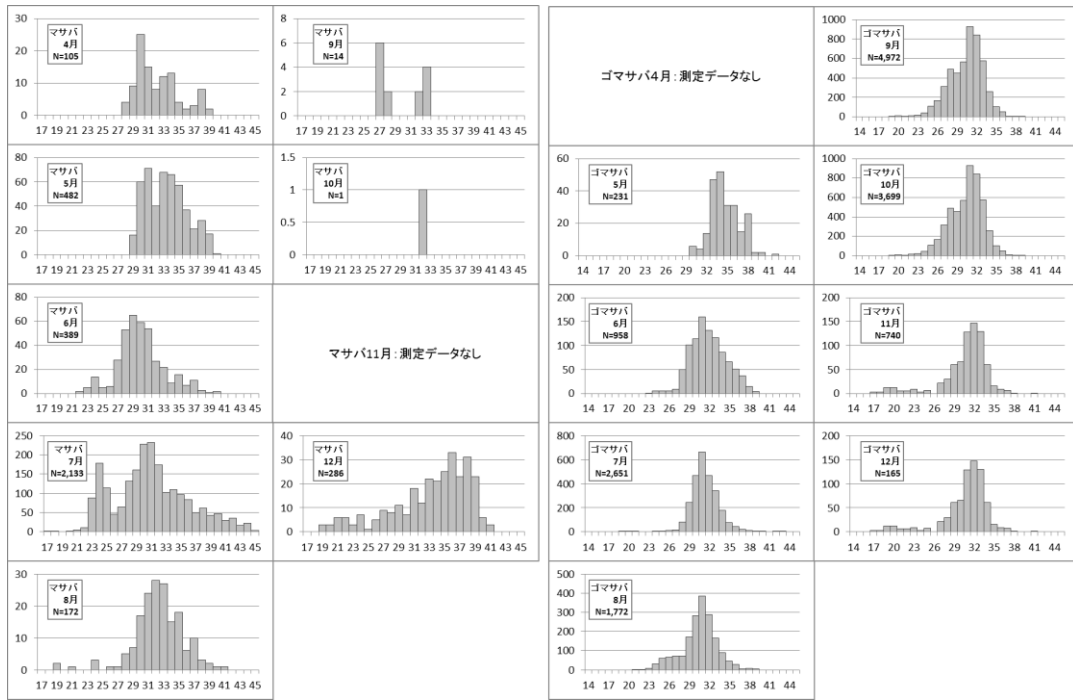


図2 さば類 尾叉長 (cm)

表2 さば類 年齢-体長関係 (釜石魚市場、定置網)

マサバ		年2016																																						
月	5	6							7							8							9																	
年齢	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<
FL(cm)/21																																								
22																																								
23																																								
24																																								
25																																								
26																																								
27																																								
28																																								
29																																								
30																																								
31																																								
32																																								
33																																								
34																																								
35																																								
36																																								
37																																								
38																																								
39																																								
40																																								

ゴマサバ		年2016																																						
月	5	6							7							8							9																	
年齢	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<	0	1	2	3	4	5	6	7<
FL(cm)/21																																								
22																																								
23																																								
24																																								
25																																								
26																																								
27																																								
28																																								
29																																								
30																																								
31																																								
32																																								
33																																								
34																																								
35																																								
36																																								
37																																								
38																																								
39																																								
40																																								

イ マイワシ

(ア) 市場調査

本県におけるマイワシの水揚げは12月に増加した(表1)。釜石魚市場で実施したマイワシの体長測定(被鱗体長)の結果を図3に、精密測定に基づく年齢査定の結果を表3に示した。4～5月は22～23cm台主体の2～3歳魚(2013、2014年級群)中心で、6月に21～22cm台主体の2～3歳魚に加えて12～15cm台主体の1歳魚(2015年級群)が中心となる二峰型となり、7月は再び21～22cm台主体の2～3歳魚中心となった。12月は14cm台主体の1歳魚と18cm台主体の2～3歳魚が中心となる二峰型となった。

表3 マイワシ年齢-体長関係

年		2017年							
月		1月							
年齢		0	1	2	3	4	5	6	7<
FL(cm)/10									
	11								
	12								
	13			1					
	14								
	15								
	16								
	17		4	3					
	18		1	19					
	19		2	10	2				
	20		1	3	1				
	21		2						
	22			1					
	23								
	24								
	25								

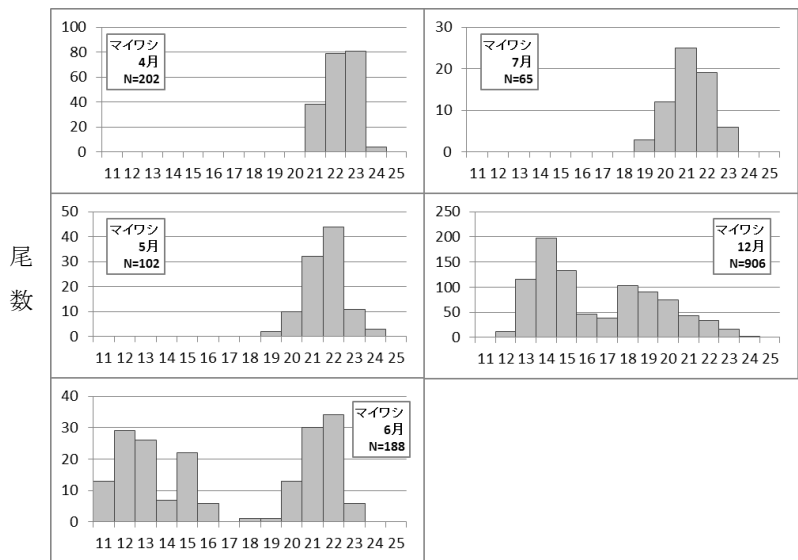


図3 マイワシ 被鱗体長組成 (cm)

(イ) 岩手県地先海域における漁況予測

マイワシに関して、本県における漁獲の中心となる1、2歳魚の資源状態から、平成28年4～7月の漁況として、漁獲は前年を上回ると予測した。

ウ カタクチイワシ

本県におけるカタクチイワシの水揚げは10～11月に増加した(表1)。久慈魚市場における体長測定(被鱗体長)の結果、定置網漁獲物の被鱗体長は、9月が8.5cm台主体、11月が9.5cm台主体となった(図4)。

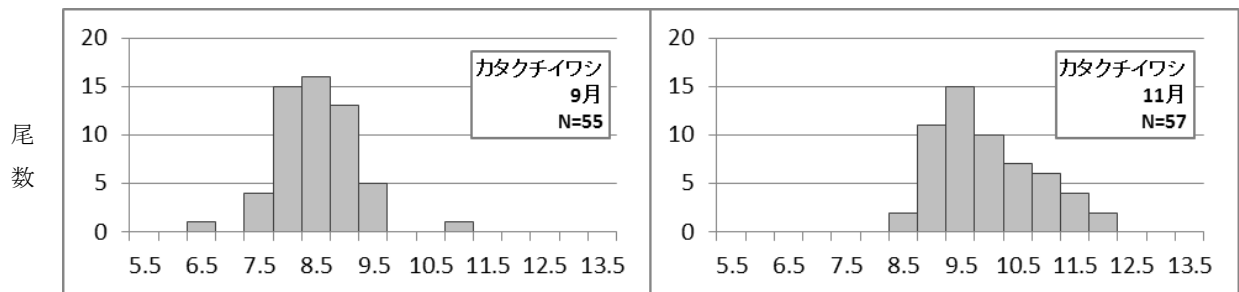


図4 カタクチイワシ 被鱗体長 (cm)

エ ブリ

本県におけるブリの水揚げは6月に増加した（表1）。釜石魚市場で実施したブリの体長測定（尾叉長）の結果を図5に示した。定置網漁獲物の尾叉長組成は、5～6月は55cm台主体のショッコ銘柄が中心であった。8月は31cm台主体のワカシ銘柄と59cm台主体のショッコ銘柄が中心の二峰型となった。9～12月は33～38cm台主体のワカシ銘柄が中心で、10月には54cm台主体のショッコ銘柄が混じった。8月～12月にかけて水揚げが見られたワカシ銘柄は、31～39cmの範囲で月を経るごとに主体となるサイズが大きくなり、11～12月には小型魚の増加も見られた。

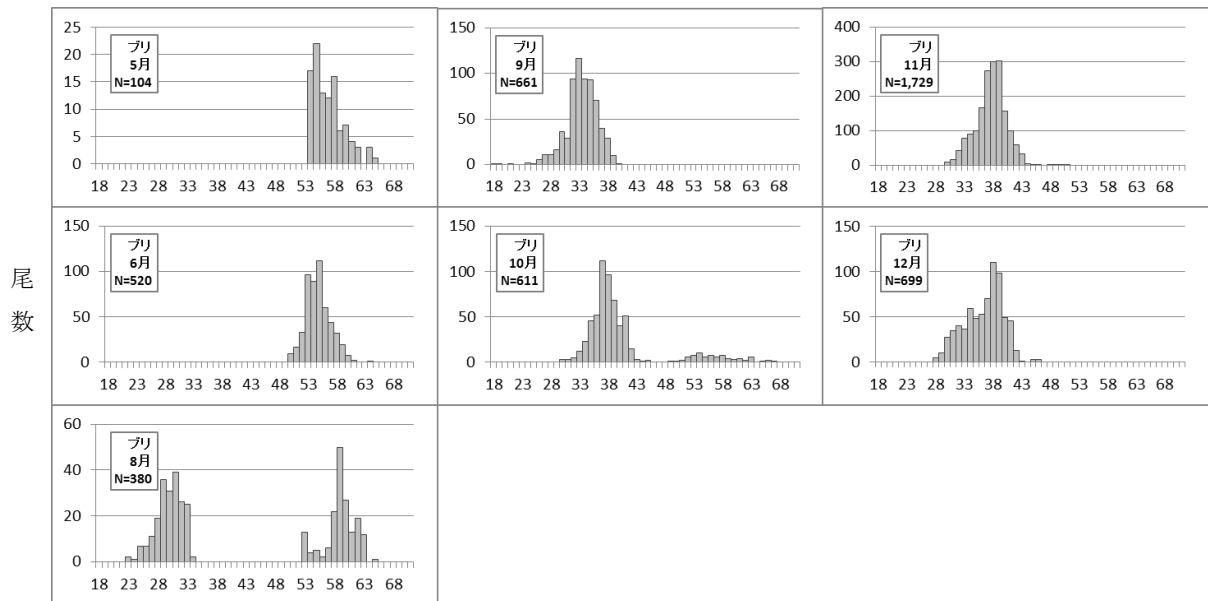


図5 ブリ尾叉長 (cm)

オ サワラ

久慈、釜石魚市場の定置網で漁獲された、サワラの体長測定（尾叉長）の結果を図6に示した。なお、体長と年齢の関係は、日本海沿岸で漁獲されたサワラが、満1歳で45cm前後、満2歳で60cm前後となるとの報告に基づく（井上ほか, 2007）。

久慈では4～6月は45～50cm台主体の1歳魚（2015年級群）が中心で、5～6月には65cm台主体の2歳魚（2014年級群）も中心となる二峰型となった。7～9月にかけて55～65cm台主体の2歳以上の魚が中心となり、月を経るごとに主体となるサイズが大きくなっていった。その後、10～12月にかけて2歳以上の魚の割合は低下し、40～45cm台主体の0歳魚（2016年級群）が中心となった。釜石では4月は45～50cm台主体の1歳魚と70cm台主体の2歳魚中心の二峰型、5月は50cm台主体の1歳魚中心、6月は65～70cm台主体の2歳以上の魚中心、7月は55cm台主体の2歳魚が中心となった。8月は60～75cm台主体の広いサイズの2歳以上の魚が中心となった。9～12月は65～70cm台主体の2歳以上の魚が中心で、10月には45cm台主体の0歳魚が混じった。久慈と釜石では、4～7月までは漁獲されるサワラの体長組成に大きな違いは見られないが、8月に釜石では60cm以上の広いサイズの大型魚が漁獲された。10～12月は久慈で40～45cm台の小型魚の割合が多く、釜石では65cm以上の大型魚の割合が多くなる傾向が見られた。

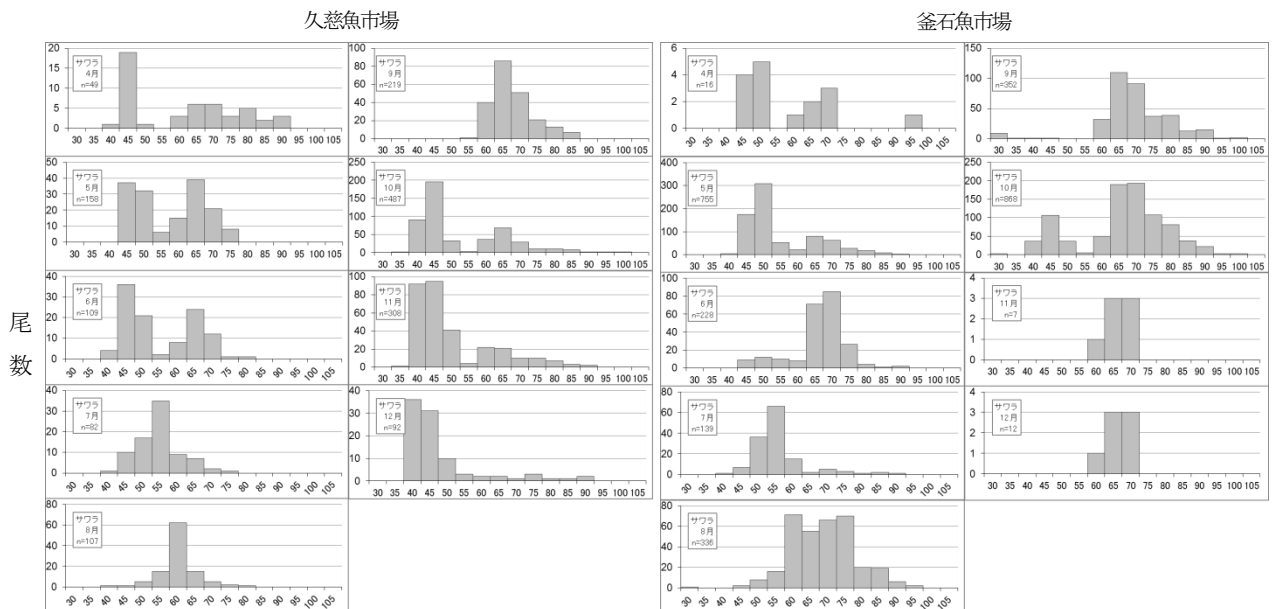


図6 サワラ尾叉長 (cm)

カ サンマ

釜石魚市場で実施したサンマの体長測定（肉体長）と肥満度の結果を図7、8に示した。棒受網漁獲物の肉体長組成は、漁期を通じて大型（29cm以上）にモードがあった。肥満度の平均値は、9月上旬が5.3台、9月中旬が4.7台、10月上旬が4.5台、10月中旬が4.7台、10月下旬が4.6台であり、漁期の経過とともに低下していく傾向にあった。

※肥満度＝体重（g）÷{肉体長（cm）}³×1,000

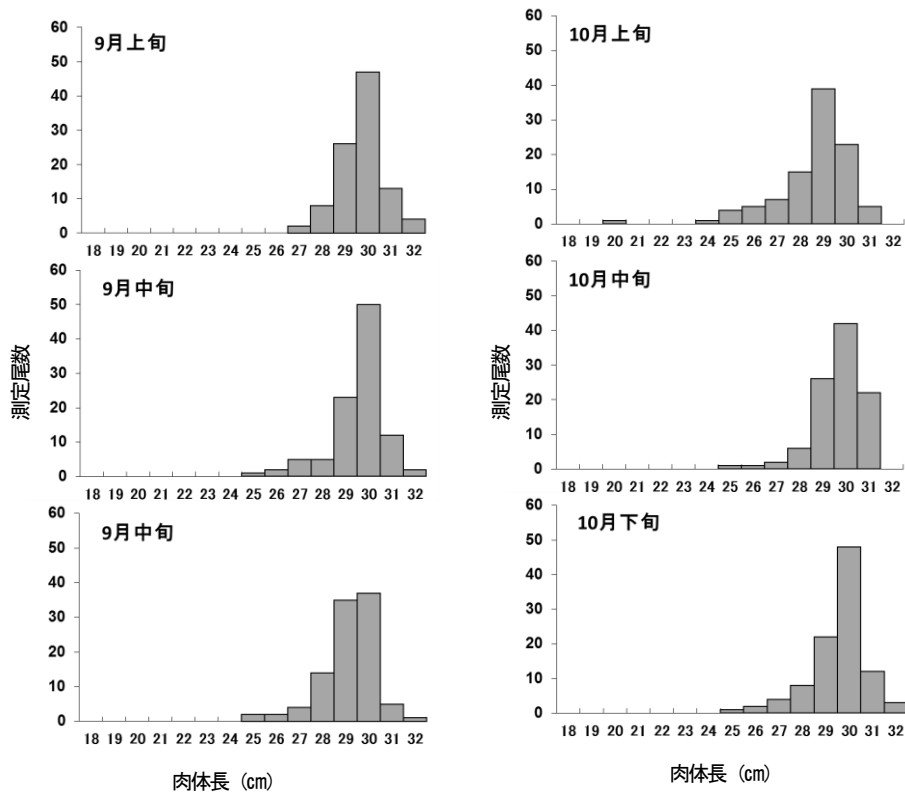


図7 サンマ肉体長組成 (cm)

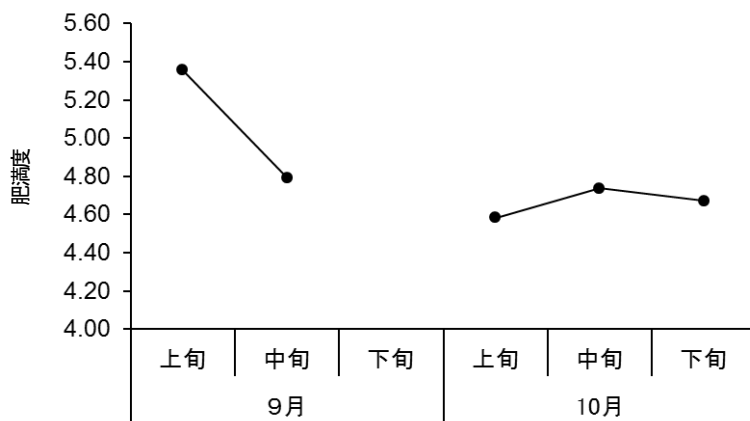


図8 サンマ肥満度の推移

キ スルメイカ

(ア) 市場調査結果

釜石（定置網）及び宮古魚市場（沖合底曳網）で実施したスルメイカの体長測定（外套背長）の結果を図9に示した。定置網漁獲物の外套背長は、5月が12cm台、6月が15cm台主体、7月が14cm台及び23cm台主体、8月が18cm台及び24cm台主体であり、5～8月にかけて徐々に大型化する傾向が認められた。また、7月以降出現した23～24cm台が9月以降に漁獲主体となった。一方、沖合底曳網漁獲物の外套背長組成は、6月が16cm台、10月が21cm台主体であった。外套背長のモードの推移から、定置網で8月まで漁獲されていた群が、その後沖合底曳網の漁獲対象として加入したものと考えられる。

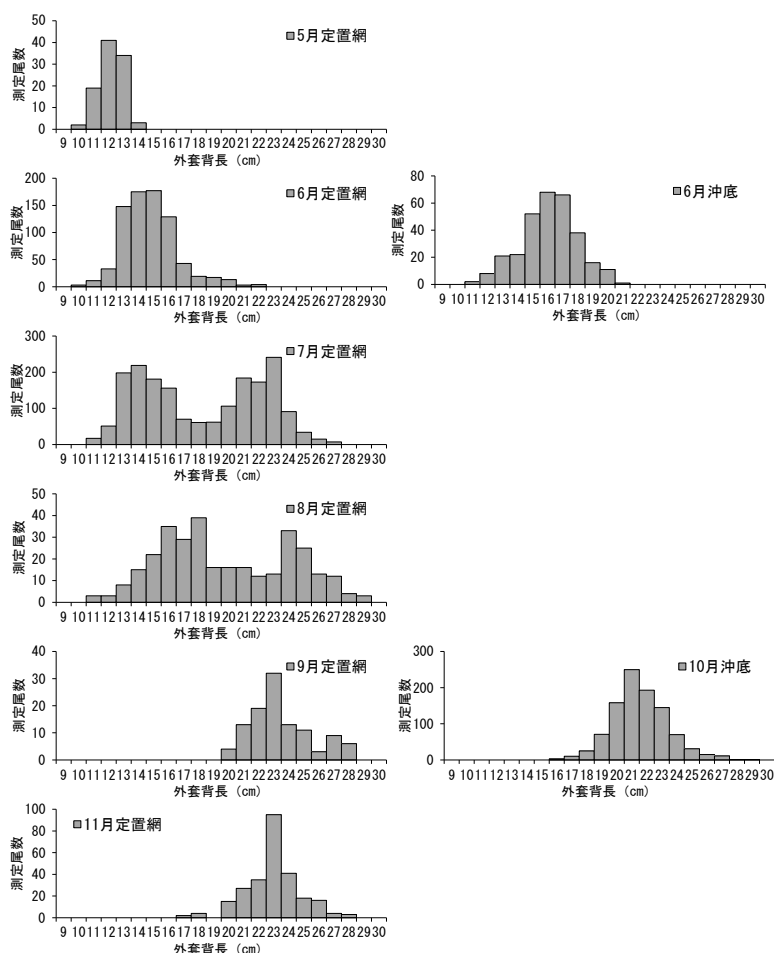


図9 スルメイカ 外套背長組成 (cm)

(イ) 岩手県地先海域におけるスルメイカ群構成把握、来遊動向予測技術検討

平成27、28年度漁期のスルメイカ不漁を受けて、南下期の漁獲量変動要因及び平成28年度漁期の不漁要因について検討した。その結果、当該時期の漁獲量の多寡、漁獲パターンの変動要因として、資源量水準及び秋～冬季の親潮系冷水の挙動が影響を及ぼしている可能性が示唆された（図10）。本県では、来遊資源の大部分を道東沖合域からの南下群（冬生まれ群）に依存しており（図11）、漁獲量の多寡は親潮の挙動に強く依存すると推察される。しかし、平成28年を含む近年では、秋季以降の親潮勢力が弱体化傾向にあることから、本県沿岸域における漁場形成が不安定になり易くなっていると考えられ、このことが漁期の晩秋化、漁場形成不調及び漁獲量減少の一因となっていると推察された。

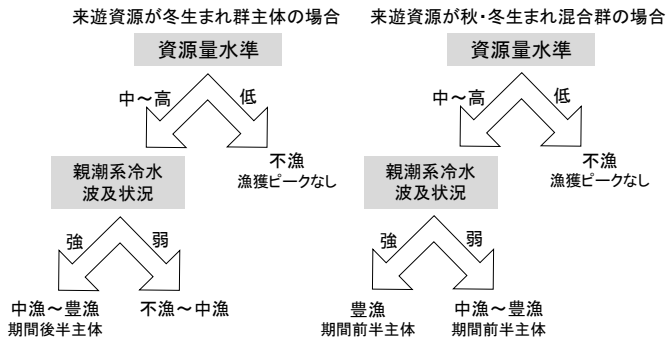


図10 岩手県におけるスルメイカ南下期の漁獲変動機構

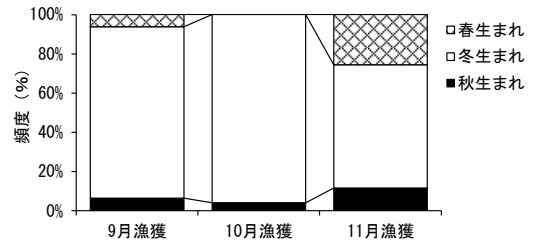


図11 9～11月の岩手県におけるスルメイカの孵化時期組成

2 漁場調査等

(1) サンマ漁場調査結果

ア 民間船聞取調査

平成28年度に実施したさんま棒受網漁船に対する聞取調査の結果を表5に示した。調査の結果、10月下旬まで親潮第2分枝側の沖合域に漁場が形成されていた。

イ 漁業指導調査船「岩手丸」による漁場調査

岩手丸によるサンマ漁場調査結果の概要を表6及び図12に示した。平成28年度の調査で漁獲されたサンマの肉体長は20～31cm台で、30cmにモードがあった。

表5 釜石港民間船聞取調査結果

操業月日	操業位置		網数 (回)	漁獲量 (トン)	表面水温 (°C)	魚体の割合			魚群性状	魚群濃淡	魚群の大きさ	灯付状態
	緯度(N)	経度(E)				大	中	小				
9月3日	46.04	154.35	21	18	15	30	40	30	シラミ	淡	小	やや不良
9月12日	42.18	148.40	10	60	13.8	20	50	30	シラミ	並	中	並
9月19日	43.21	147.28	10	87	13.5	20	50	30	ハネ	淡	小	並
10月1日	41.05	149.43	12	60	16.5	10	50	40	シラミ	淡	中	やや不良
10月20日	39.29	146.10	13	38	15.5	10	50	40	シラミ	淡	小	やや不良
10月30日	39.11	145.31	17	30	15.1	10	50	40	シラミ、ハネ、ボチ	並	中、小	並

表6 岩手丸による漁場調査結果

操業月日	操業位置		網数 (回)	漁獲量 (尾)	表面水温 (°C)	魚体の割合			魚群性状	魚群濃淡	魚群の大きさ	灯付状態
	緯度(N)	経度(E)				大	中	小				
10月24日	38.56	141.50	1	40	17.7	0	30	70	シラミ	淡	小	不良

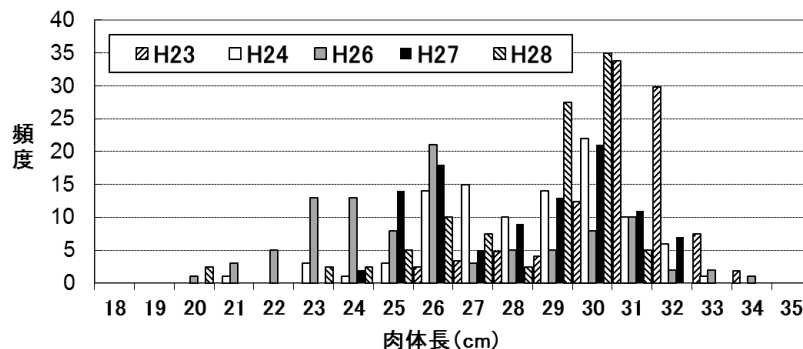


図12 岩手丸による漁場調査において漁獲されたサンマの体長組成

(2) スルメイカ漁場調査結果

平成28年6月～11月にかけて、漁業指導調査船「岩手丸」及び「北上丸」により、太平洋いかり類一斉漁場調査（資源評価調査事業、水産庁委託）及びいかり類漁場形成状況調査（県単独事業）を実施した。

岩手丸による調査は、全自動いか釣り機3機と船上灯を用いた夜間操業により実施した。採集されたのはスルメイカ、アカイカの計2種で、合計釣獲尾数は582尾、平均CPUE（釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数）は3.9尾だった（表7）。

北上丸による調査は、全自動いか釣り機4機と船上灯を用いた夜間操業により実施した。採集されたのはスルメイカ及びアカイカの計2種で、合計釣獲尾数は1,320尾、平均CPUEは11.7尾だった（表8）。

表7 岩手丸による漁場調査結果

調査回数	調査月日	調査位置		水温(°C)			釣獲時間 (h):t	釣り機台数 (台):n	釣獲尾数 (尾):c	CPUE (c/n/t)	種名	備考(調査点No)
		N	E	0m	50m	100m						
第1次太平洋 いか類一斉調 査	6/16	39-00.00	142-00.00	16.3	11.7	10.9	2.0	3	0	0.0		1
	6/16	39-00.00	142-30.00	16.4	10.2	8.1	2.0	3	0	0.0		2
	6/6	39-00.00	142-45.00	19.9	17.5	15.7						3
	6/6	39-00.00	143-00.00	19.3	16.8	11.4	2.0	3	0	0.0		4
	6/6	39-00.00	143-30.00	18.1	12.6	9.8	2.0	3	1	0.2	ツメイカ	5
	6/7	39-00.00	143-45.00	19.6	16.5	11.2						6
	6/7	39-00.00	144-00.04	19.4	16.8	14.4	2.0	3	0	0.0		7
	6/7	39-00.00	144-30.00	19.7	16.8	13.7	2.0	3	1	0.2	アカイカ	8
	6/8	39-15.00	144-30.00	19.6	18.3	15.4						9
	6/8	39-30.00	144-30.00	19.5	18.0	15.3	2.0	3	0	0.0		10
	6/8	39-30.00	144-00.00	19.3	18.3	15.9	2.0	3	13	2.2	アカイカ	11
	6/9	39-30.00	143-30.00	19.2	26.8	14.7						12
	6/15	39-30.00	143-00.00	19.5	17.4	14.3	2.0	3	0	0.0		13
	6/15	39-30.00	142-30.00	16.8	10.6	9.5	2.0	3	0	0.0		14
	第2次太平洋 いか類一斉調 査	8/24	39-30.00	142-20.00	23.6	16.1	12.7	2.0	3	34	5.7	アカイカ
8/24		39-30.00	142-50.00	24.6	17.4	14.7	2.0	3	2	0.3	スジイカ	2
8/25		39-30.00	143-30.00	25.0	21.5	17.8						3
8/25		39-30.00	144-00.00	24.3	19.8	18.6						4
8/25		39-30.00	144-40.00	25.1	20.0	18.7	2.0	3	81	13.5	アカイカ5尾、トビイカ76尾	5
8/25		39-30.00	144-39.99	24.6	20.9	18.8	2.0	3	4	0.7	アカイカ1尾、トビイカ3尾	6
8/26		39-30.00	144-00.00	24.9	20.8	18.2						7
8/26		39-30.00	143-30.00	25.1	19.5	15.2						8
8/26		39-30.00	142-50.00	21.7	10.3	8.2	2.0	3	49	8.2	アカイカ	9
8/26		39-30.00	142-20.00	20.5	16.5	11.8	2.0	3	148	24.7	アカイカ	10
漁場調査	7/13	39-00.00	142-00.00	20.7	13.2	11.5	2.0	3.0	2	0.3	スルメイカ	
	7/13	39-09.08	142-04.03	18.4	13.1	12.3	2.0	3.0	1	0.2	スルメイカ	
	7/19	39-32.06	142-10.07	18.7	13.3	11.3	2.0	3.0	5	0.8	スルメイカ	
	7/19	39-21.00	142-08.01	18.7	14.2	11.3	2.0	3.0	8	1.3	スルメイカ	
	7/21	40-00.00	142-11.01	19.1	13.0	10.2	2.0	3.0	7	1.2	スルメイカ	
	7/28	39-05.09	141-59.01	18.8	15.6	12.3	2.0	3.0	113	18.8	スルメイカ109尾、アカイカ4尾	
	7/28	39-14.08	1542-02.08	21.1	14.0	13.5	2.0	3.0	34	5.7	スルメイカ	
	9/6	39-02.00	141-57.00	22.8	16.7	12.9	2.0	3.0	42	7.0	スルメイカ	
	9/6	39-14.08	142-02.09	20.2	16.0	12.6	2.0	3.0	37	6.2	スルメイカ	

表8 北上丸による漁場調査結果

調査回数	調査月日	調査位置		水温(°C)			釣獲時間 (h):t	釣り機台数 (台):n	釣獲尾数 (尾):c	CPUE (c/n/t)	種名	備考
		N	E	0m	50m	最下層						
夜間操業	1	7/13	39-24.30	142-01.55	16.9	13.5	13.6	2.0	4	74	9.3	スルメイカ
	2	7/13	39-23.02	141-59.23	17.9	13.6	13.1	2.0	4	220	27.5	スルメイカ
	3	7/14	39-15.68	141-57.15	16.9	13.6	12.9	2.0	4	104	13.0	スルメイカ
	4	7/28	39-09.41	141-55.35	17.3	14.1	11.9	2.0	4	18	2.3	スルメイカ
	5	7/28	39-12.11	141-56.06	17.9	13.8	12.5	2.0	4	100	12.5	スルメイカ
	6	7/29	39-15.90	141-57.53	18.2	13.8	11.8	2.0	4	256	32.0	スルメイカ
	7	8/3	39-41.46	42-01.69	20.0	17.4	15.9	2.0	4	205	25.6	スルメイカ
	8	8/4	39-15.75	141-57.49	20.0	16.4	14.5	2.0	4	136	17.0	スルメイカ
	9	9/15	39-17.48	141-58.33	20.5	18.5	14.9	2.0	4	17	2.1	スルメイカ
	10	9/15	39-15.87	141-57.96	20.4	18.8	14.7	2.0	4	31	3.9	スルメイカ
	11	9/29	39-10.86	142-05.72	22.3	17.6	13.2	2.0	2	83	20.8	スルメイカ
	12	9/29	39-07.47	142-04.10	20.8	17.0	12.6	2.0	2	1	0.3	スルメイカ
	13	9/30	39-17.91	142-08.26	20.4	19.2	15.4	2.0	4	74	9.3	スルメイカ15尾、アカイカ59尾
	14	10/28	39-18.28	142-07.97	15.9	15.6	14.7	2.0	2	1	0.3	スルメイカ
	15	11/7	39-15.46	142-07.24	16.8	17.0	15.8	2.0	2	0	0.0	スルメイカ

＜今後の問題点＞

資源の持続的な利用のためには、国の行う資源評価・漁況予測に基づく資源管理が重要となる。現在の資源状態の正確な評価と、精度の高い漁況予測を行うためには、各研究機関が行う調査により、即時性と精度の高い情報の収集が必要となる。本県においても、調査船によるモニタリング調査、市場調査等の各種調査を継続して行っていく必要がある。

また、本県地先海域における漁獲の実態は、海況等を反映して変化し、広範囲を対象に行う国の資源評価・漁況予測と必ずしも一致しない。地域の実態に即した漁況の予測を行うためには、本県に来遊する浮魚類の来遊特性や資源状態の把握を独自に行う必要がある。このため、各種調査で得られた情報を解析し、来遊資源の特性を把握することで、本県の実態に即した漁況の予測を行う必要がある。

さらに、限られた資源を効率的・計画的に活用するためには、資源評価・漁況の予測に基づき、資源を管理する必要がある。特にクロマグロについては、国際合意に基づき全ての漁法で小型魚(30kg未満)の漁獲制限が実施されており、漁獲枠の超過による定置網の休漁措置がとられる可能性がある。このため、定置網における小型魚の漁獲抑制技術を開発する必要がある。

<次年度の具体的計画>

1 回遊性魚種の資源動向モニタリング

(1) 浮魚類の漁獲動向の整理

以下に示す魚種について、本県における漁獲量資料集計、体長測定（魚市場内測定調査）、精密測定及び年齢査定等を実施し、資源評価並びに漁況予測の基礎資料となるデータを収集する（調査対象種：スルメイカ、サンマ、さば類、いわし類、マアジ、ブリ、サワラ、クロマグロ）

(2) 調査船調査の実施

サンマ及びスルメイカを対象として調査船による漁場調査を実施し、結果については漁業関係者、関係機関等へ情報提供を行う。

2 本県地先海域における漁況予測技術の開発

(3) 回遊性魚種の資源評価と漁況予測

収集したデータについて関係機関と連携して分析・精査し、資源評価並びに漁況予測を行う。特に、さば類に関して、本県地先海域における漁況予測を行い、サワラに関して、資源動向調査において本県への来遊動向を推定する。

3 資源管理技術の開発

(3) 定置網における小型クロマグロ漁獲抑制技術の開発

国立研究開発法人水産研究・教育機構が代表となる「太平洋クロマグロ漁獲抑制対策支援事業」により、県内定置網業者、大学等と共同で、定置網における小型クロマグロの漁獲抑制技術を開発する。

<結果の発表・活用状況等>

1 資源評価票及び長期漁況予報等

- ・平成28年度魚種別系群別資源評価（計7種）
- ・太平洋いわし類、マアジ、さば類長期漁況予報（延べ3回）
- ・太平洋スルメイカ長期漁況予報（延べ2回）
- ・北西太平洋サンマ長期漁況予報（延べ1回）
- ・北西太平洋サンマ中短期漁況予報（延べ9回）

2 研究発表等

高梨・後藤、2013～2015年の岩手県におけるスルメイカ南下期の漁獲動向と孵化時期、平成28年度日本水産学会秋季大会

- ・岩手県におけるスルメイカ南下期の漁獲変動要因の推定、平成28年度底魚研究連絡会議

3 研究報告書等

4 広報等

- ・漁況情報（旬報）、水産技術センターHP、延べ27回
- ・漁況月報、水産技術センターHP、延べ12回
- ・スルメイカ情報（いか釣情報）、水産技術センターHP、延べ6回
- ・漁業指導調査船による漁獲調査結果広報（漁業無線を通じた民間漁船等への漁場調査結果の即時配信）

5 その他

- ・岩手県におけるスケトウダラ及びスルメイカの漁況と資源動向（平成28年度沖底資源談話会）
- ・岩手県におけるスルメイカの秋冬季漁獲変動要因（スルメイカ冬季発生系群の資源状態と漁況予報をめぐ

って)

- ・今年漁況経過と今後の見通し（平成28年度定置網大謀交流会）
- ・岩手県の漁業資源について（新規漁業者本格養成講座、大槌町）
- ・浮魚の資源状況及び海況について（平成28年度定置漁業講習会）
- ・スルメイカの今漁期の特徴と今後の見通しについて（平成28年度水産技術センター漁海況相談会）
- ・平成27年度サンマ漁海況について（さんまLED集魚灯に係る説明会）
- ・平成28年度サンマ漁期の海況及び来遊予想について（平成28年度さんま漁業出漁前説明会）
- ・平成28年度サンマ漁期の海況及び漁況について（平成28年度第2回サンマ資源・漁海況検討会議）